

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア 西オーストラリア州 パース
研修先	西オーストラリア州・兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	平成 28 年 8 月 23 日～平成 28 年 9 月 10 日
学部/研究科・学年	経済学部 3 年

インターンシップ就業実習 報告書

2016年8月23日～9月10日、西オーストラリア州兵庫文化交流センターにて参加したインターンシップの就業体験について以下に報告します。3週間という短い期間でしたが、日本・兵庫県と西オーストラリア州・パースを繋ぐお仕事的一端に触れる中で、大変多くのことを学び、経験することができ、大変有意義な時間でした。

文化センターでの主な業務内容は、

- ・ School visit の補助
- ・ 神大生によるワークショップ（プレゼンテーション）の準備と実施
- ・ 図書の貸し出し手続きの補助
- ・ 日本語教室の補助
- ・ イベント chatter box の準備
- ・ 掲示板の作成

といったものでした。

School visit

School visit とは、現地の 10~14 歳の学生が、文化センターに訪問し、日本語を学び日本文化を体験できるプログラムです。私の就業中は 4 校の訪問があり、各学校での日本語学習レベルによって日本語クイズや日本語会話体験など、内容が変化しました。共通して行うイベントとして、消しゴムで自分の名前入り判子を作成すること・書道体験があります。その中で私は、日本語会話への参加や、作業についていけない生徒の補助をしました。パースの学校では、私の想像以上に日本語教育が進んでおり、ポケモン GO などの効果で日本や日本文化について知っている学生が多く、日本についての基本的な情報よりも、一歩進んだ面白い話をするよう心掛けました。その一方で、生徒に接する際は、理論的に説明する、というよりは、笑顔ではっきり大きく話すことがいつも以上に重要だと感じ、イベント中の生徒達の集中を途切れさせないための工夫を考えるのは難しい反面、非常に重要なことでした。後半では、ワークショップのプレゼンを生徒たちの前でさせていただき、大人の方へのプレゼンとはまた違った伝え方の工夫や間の取り方を学ぶ良い機会になりました。

ワークショップ（プレゼンテーション）

私のインターンシップの大きなイベントとして、土曜日の日本クラスにおいて、日本や兵庫県、神戸市を紹介するプレゼンテーションを行いました。告知用フライヤー作成、

告知のメール送信から当日発表までを、センターの方にお手伝いしていただきながらも自力で進める必要がありました。テーマ設定に関しては、日本に対してすでに興味を持ってくださっており、また少なくはない知識を持っている方々に、「今の日本と兵庫県」についてどのようにプレゼンをすれば、来てよかった、聞いてよかったと思ってもらえるか、を考えることが非常に難しかったです。ありふれた既存の情報ではなく、私らしさを含めた「面白いプレゼンとは何か」を考える大変良い機会になったと思います。具体的な内容は、①私自身について ②神戸市の今 ③日本映画の現状 ④最新の日本のおみやげ について、また粘土を使った和菓子作成体験をアクティビティとしました。このワークショップを行うにあたって、そもそも人は何に興味を持つのか、あることに対してそれ以上に知りたいと思うのはどういう時か、オーストラリアと日本の違いや日本についてどのように知られているか、を調べ、時に質問しました。比較的長い時間、多くの聴衆の前で英語を用いてプレゼンをすることが、私にとっては初の試みではありましたが、だからこそ、前段階での綿密なプレゼン作成や練習が必要不可欠でした。ここで学び、得たことは、これからの学生生活でも大いに活かしていきたいです。

日本語教室の補助

センターでは、毎週木曜日と土曜日の午前中に日本語教室が開かれており、日本語を学びたい現地の方々に対して、初級と中級のクラスが設けられています。私はこの教室に数回参加させていただき、会話の補助等のお手伝いをしました。一つ一つの単語や文法を熱心にノートに取る姿に、自分の言語学習への情熱の少なさや態度の甘さを感じました。

図書館貸し出し手続きの補助、Chatter box の準備、掲示板の作成

センターに併設されている図書館の本をセンターの会員の方々は借りることが可能で、返却された本を棚に戻すこと、質問があった際にはおすすめの本を紹介すること、貸出するために本にフィルムをかけること、などの業務がありました。毎週土曜日午後には、Chatter box という、日本語・英語を使って楽しく会話をする時間があり、そこでは日本語を専門的に学んでいる人、日本に数十回旅行で訪れたことのある人、日本を訪れたことはないが興味がある人、ワーキングホリデーでパースに来ている日本人など、様々な人と出会い、意見交換をすることができました。

感想および意見

3週間という、兵庫県文化交流センターでのインターンシップ期間は私にとっては非常に短く感じました。それだけ、1日1日に体験すること・学ぶことが多かったです。

このインターンシップは、最初から最後まで、挑戦と失敗、そして練習と改善の連続でした。パースへの派遣が私一人であったため、渡航、ホテル宿泊、プレゼン準備・作成等を基本的に一人で行わなければならない、初めは不安が胸中の大部分を占めていました。しかし、自分の英語力やコミュニケーション能力を試す良い機会だと考え、「挑戦することを恐れず、楽しむこと」をモットーに3週間行動しようと決めました。

兵庫県文化交流センターは、西オーストラリア州と兵庫県を文化の面で繋ぐだけでなく、様々な人が出会い、またその出会いが始まる場だと感じられました。「人によって意見や物事に対する興味が異なる人が、一同に会し、交流する。」今まで、同年代や限られた地域の中で生活をしてきた私にとって、それはまさに目からウロコの瞬間でした。センターは、教育関連に特に力を入れており、西オーストラリアと兵庫県の中学・高校の交換交流を推進しています。具体的に現地の高校に視察に行く機会等には恵まれませんでした。センターを訪れる生徒さんと School visit 等で出会うことで、新たな輪ができたように感じました。

また、センターを訪れた一人の日本の方の発した、「日本のモノは、本当に消費者のことを考えて作られていると、こっち（パース）での生活が長くなってから身をもって知ったわ」という言葉に深い感銘を受けました。日本が「おもてなし」の国であることは日本国民も海外の人も少なからず知っています。それは日本流の相手のことを考えた目に見えない無形の「サービス」がおもてなしだと考えられることが多いです。しかし、私たちが普段何気に使っている有形のモノにも、日本人らしさがあることに気づかされました。これを、深く知ることができるのは、海外で生活してみて初めて感じるのだと思います。海外の地において、日本人としての誇りを感じ、「世界が日本に求めている役割」に一つでも貢献できるようになりたい、と感じました。

滞在中は、私を受け入れてくださったホストファミリーの方々に本当にお世話になりました。彼らの家族の一人として、オーストラリアの生の生活に入ることにより、日本にいた間には見えてこなかった生活観や大げさに言えば人生の教えのようなものを、身をもって知りました。ホストシスターが年齢も近かったこともあり、これからのそれぞれの人生や、世界で働くということ、時には恋愛についてまで議論できたことは、私にとって大変有意義でした。勿論文化の違いからくる考え方の違いはありましたが、根本的に「現代に生きる女性としての社会に出る前の悩みや思考」は似通っており、ここで様々なことを意見交換できたことは私にとって非常に大きな糧になりました。

パースの街は、都市と自然を融合させた均整のとれた街で、生活することも勉学に励むことも最適な街のように感じました。学部生の、就職活動前に、異文化交流体験だけでなく海外での就業実習に参加でき、自分のキャリアパスを深く考えるきっかけになりました。

最後に、私をあたたかく受け入れて下さった、兵庫文化交流センターの皆様、ホストファミリーの方々、そして神戸大学の皆様に心より感謝致します。



シティ。ホストシスターと。



パースでアーチェリーしました。



キングスパーク



スクールビジット中のプレゼンテーション



ピナクルズ



センター前